

京都メディア史研究年報

創刊号

二〇一五年（平成二十七年）四月

京都大学大学院教育学研究科
メディア文化論研究室

『京都メディア史研究年報』創刊号 目次

創刊言——『京都メディア史研究年報』刊行に寄せて……………佐藤卓己(一)
ピア・レビュー……………(五)

論文

「社」と「骨」の闘争——靖国神社・千鳥ヶ淵戦没者墓苑と「戦没者のシンボル」の不成立
……………福間良明(一四)
「民主主義」から「戦後主義」へ——映画『青い山脈』(一九四九年)をめぐる輿論と世論
……………花田史彦(四二)
京都における明治百年祭(一九六八)イベント——独立プロ映画『祇園祭』と「京都」イメージの形成
……………トパチヨール・ハサン(七二)
もうひとつの情報化社会——きたるべき「メディア史の終わり」に備えて……………赤上裕幸(八九)
ネットウヨとナチスの隔たり——掲示板「2ちゃんねる」の言説分析から……………河崎吉紀(一一五)

研究ノート

『主婦之友』の新聞広告に見る石川武美の販売戦略……………石田あゆ(一一八)

- 丘の上の赤い屋根——映画《小さいおうち》にみる山の手ディスタンス・タリオン
 ……佐藤八寿子（二六〇）
 アマチュア無線家たるための雑誌『CQ ham radio』……白戸健一郎（二八八）
 複合文化社会・ハワイの日本語テレビ——テレビ雑誌『Kokiku』に着目して
 ……松永智子（二一七）

書評

- メディア史研究の「フロンティア」——竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子編著『日本の論壇雑誌——教養
 メディアの盛衰』……花田史彦（二三八）
 論壇の社会的分析——竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子編著『日本の論壇雑誌——教養メディアの盛衰』
 ……佐々木基裕（二五八）
 「ラジオの夢」の栄光と挫折——Goodman, David. *Radio's Civic Ambition: American Broadcasting
 and Democracy in the 1930s*……長崎励朗（二七九）

英語論文

- Consumption of Nazi Culture Images in Postwar Japan ……Sato Takumi（三二〇／一）

KYOTO JOURNAL OF MEDIA HISTORY Vol.1
CONTENTS

The Contribution to the First Issue: on the Publication of
“Kyoto Journal of Media History” Sato Takumi(1)
Peer review (5)

Articles

The struggle between Yasukuni and Chidorigafuchi: A note on
the politics of the “symbol of the Japanese war dead”
. Fukuma Yoshiaki(14)

From Postwar Democracy to Democratic Postwar ’ism: Public
opinion and Popular sentiments on Aoi Sanmyaku(1949)
. Hanada Fumihiko(42)

Meiji Centennial Event (1968) in Kyoto: The Case of
Independent Professional Movie 「Gion Matsuri」 and The
Conception of 「Kyoto Image」— Hasan Topaçoğlu(72)

The plot against the information society: In preparation for
“the end of media history” Akagami Hiroyuki(89)

Distance between Net Right and Nazis: A Discourse Analysis
of “2-channel” Kawasaki Yoshinori(115)

Research notes

Marketing strategy and publication advertising of Japanese
women’s magazine ‘SYUFU NO TOMO’ from 1917 to 1946.
. Ishida Ayuu(128)

- Red roof house on a hill: a note for the study on
 “Yamanote”, the image of a modern life of Japanese Petit
 bourgeois Sato Yasuko(160)
- “CQ hamradio”: The Magazine to be a Ham.
 Shirato Kenichiro(188)
- Hawaii’s Japanese TV Programs in a Multicultural Society :
 Focusing on the Hawaii’s TV Magazine ‘KOKIKU’
 Matsunaga Tomoko(217)

Book review

- TAKEUCHI Yo,SATO Takumi,INAGAKI Kyoko ed,*Japanese
 Magazine for the Public Opinion: The Rise and Fall of
 Intellectual media* Hanada Fumihiko(238)
- TAKEUCHI Yo,SATO Takumi,INAGAKI Kyoko ed,*Japanese
 Magazine for the Public Opinion: The Rise and Fall of
 Intellectual media* Sasaki Motohiro(258)
- Goodman, David. *Radio’s Civic Ambition— American
 Broadcasting and Democracy in the 1930s*. New York
 Nagasaki Reo(279)

Article(English)

- Consumption of Nazi Culture Images in Postwar Japan
 Sato Takumi(320/1)

執筆者二〇一四年度主要業績欄

(掲載順、三点以内)

流夢譚「事件」・「論壇」・編集者の思想史」

『同時代史研究』七号

○佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科教授)

- ・『戦後のメディア空間―論壇と時評二〇二一―
二〇二三』(中央公論新社、二〇一四年)

- ・『増補・大衆宣伝の神話―マルクスからヒトラ
ーへのメディア史』(ちくま学芸文庫、二〇一
四年)

- ・『増補・八月十五日の神話―終戦記念日のメデ
ィア学』(ちくま学芸文庫、二〇一四年)

○福岡良明(立命館大学産業社会学部教授)

- ・「戦跡の『発明』と地域の記憶」『図書』七八
四号

- ・「人生雑誌に映る戦後」『世界思想』四一号
- ・「書評 根津朝彦著 『戦後』『中央公論』と『風

○花田史彦(京都大学大学院教育学研究科修士課程)

- ・「『戦後民主主義』試論―映画『青い山脈』を
めぐる言説から―」(二〇一三年度大学学部卒
業論文、慶應義塾大学文学部提出)

○トパチョール・ハサン(京都大学大学院教育学研
究科博士課程)

- ・「トルコ共和国百年祭(二〇二三年)のメデ
ィア・イベント―明治百年祭(一九六八年)との
比較分析から―」『京都大学大学院教育学研究
科研究科紀要』第六一号

○赤上裕幸(防衛大学校公共政策学学科講師)

- ・「ポスト活字」社会の黙示録―『映画教育』
『活映』復刻にあたって『映画教育／活映 復

刻版 第1期』（柏書房、二〇一四年）

- ・『放送朝日』——戦後京都学派とテレビ論壇
- 竹内洋・稲垣恭子・佐藤卓己編著『日本の論壇雑誌——教養メディアの盛衰』（創元社、二〇一四年）

○河崎吉紀（同志社大学社会学部准教授）

- ・【口頭発表】「イギリスにおけるジャーナリスト養成——NCTJの取り組み」メディア史研究会第三七回研究会、二〇一四年二月二二日
- ・【口頭発表】「ジャーナリストの社会的地位——一九世紀におけるイギリスの職業団体を参考に」日本マス・コミュニケーション学会二〇一四年春季研究発表会ワークショップ、二〇一四年六月一日

○石田あゆ（桃山学院大学社会学部准教授）

- ・『戦時婦人雑誌の広告メディア論』青弓社、二〇一四年

〇一五年

○佐藤八寿子（京都女子大学非常勤講師）

- ・「『暮しの手帖』——山の手知識人の覇権」竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子編著『日本の論壇雑誌——教養メディアの盛衰』（創元社、二〇一四年）

○白戸健一郎（筑波大学人文社会学系助教）

- ・『日本の論壇雑誌』関連年表」竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子編著『日本の論壇雑誌——教養メディアの盛衰』（創元社、二〇一四年）
- ・講演「東北フォーラム 満洲電信電話株式会社とは何だったのか」国際善隣協会、二〇一四年二月一七日

・【学術会議報告】『The Legacy of the

Manchurian Telegraph and Telephone

Company and the Eastern Asia Broadcasting

Network.”, (Breakdown of the Japanese Empire and the Search for Legitimacy (European Research Council), University of Cambridge, Cambridge, United of Kingdom), September 20-23, 2014.

○長崎励朗（京都文教大学総合社会学部講師）
・「『朝日ジャーナル』——桜色の若者論壇誌」
竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子編著『日本の論壇雑誌——教養メディアの盛衰』（創元社、二〇一四年）

○松永智子（東京経済大学コミュニケーション学部専任講師）

・『『ニューズウィーク日本版』——論壇は国際化の夢を見る』竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子編著『日本の論壇雑誌』（創元社、二〇一四年）

○佐々木基裕（京都大学大学院教育学研究科博士課程）

・「日本の教育哲学界におけるポストモダニズム受容——『教育哲学研究』を事例に——」『教育・社会・文化』一五号

『京都メディア史研究年報』刊行規定・投稿規程

(メディア文化論研究室 年報編集委員会 記)

委員会は院生より編集委員を選任する。

○刊行規定(二〇一四年八月一日制定)

○投稿規程(二〇一四年二月二九日改定)

・趣旨…メディア論およびメディア史の各分野の研究の活性化と、内外の研究者の交流および発展を意図し、メディア文化論研究室のメンバーが中心となつて、関連する教員、大学院生および共同研究者の研究成果を掲載し公表することを目的とする。

・原稿のテーマは本紀要の趣旨に沿うものとする。
・原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表およびその配布資料の場合はこの限りではない。

・掲載原稿の種類…上記の趣旨にのっとり、研究論文、研究ノート、翻訳、研究動向、書評(文献資料・図書紹介)、コラムを主として掲載するものである。

・原稿はワープロ書きで提出するものとする。縦書き・A5版(テンプレート参照)。研究論文・研究ノートは四〇〇字詰め原稿換算で六〇枚以下(図・表・

・執筆資格…本紀要の執筆資格者は、原則として、

註・文献なども含む)、翻訳・研究動向は五〇枚以下、書評は四〇枚以下を原則として上限とする。註は数字のみ上付で文末註とする。また英文原稿も掲載可能。この場合は四〇×四〇の形式に Times New

Roman、十二ポイントで二〇枚以内とする。

同研究室の教員・非常勤講師(過去の非常勤経験者を含む)、修士・博士課程在籍者、同OB/OG、共同研究者とする。それ以外の者の執筆については、上記該当者との共同執筆による場合、ないし編集委員会において特別の必要を認めた場合とする。編集

・原稿には必ず英文のタイトルをつける。

・原稿は電子データにて、編集委員に提出する。不明な点は適宜担当の編集委員に問い合わせること。なお、提出された原稿は返却しない。

京都メディア史研究年報 創刊号 二〇一五年（平成二七年）四月

編集責任 花田 史彦

〔科学研究費助成研究（挑戦的萌芽・課題番号25240155）の成果の一部〕

発行 京都大学大学院教育学研究科メディア文化論研究室

〒六〇六―八五〇一 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院教育学研究科・教育学部内

印刷 株式会社北斗プリント社

〒六〇六―八五四〇 京都市左京区下鴨高木町三八―二